

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 入学者の在学中の学力・適性を評価し、入試制度にフィードバックする枠組みを構築する。	→入学者の在学中の学力・適性。	B	B			
2. 障がいのある学生の受け入れ体制を点検・改善する。	→障がいのある学生への聞き取り調査。	B	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

(その他の指標データ)
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合
 科目等履修者の入学者数
 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

↓

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	「障がいのある学生の受け入れ方針」が明示されていない。
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	入学定員に対する一般入試入学者の比率が50%を下回っている。
小項目5.0.4	
その他	

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	全学組織である総合支援センター委員会からの方針が示された後、理工学部で障がいのある学生への聞き取り調査を行い、「障がいのある学生の受け入れ方針」をホームページ等を利用して、明示する。
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	入学定員に対する一般入試入学者の比率が50%以上になるように、さらに指定校の見直しを行う。
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆ その他 (自由記述)	
--------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 志願者倍率は高い水準を維持しています。収容定員に対する在籍学生数比率は109.9%と低下傾向にあります。一般入試入学者比率は指摘があるとおりに、全学目標の6割を切った水準となっており、改善が求められます。
- 目標に掲げられている、障がいのある学生の受け入れ体制を点検・改善の状況に言及してください。

【学内委員】

- 理工学部HP上にアドミッションポリシーとして「求める学生像」がきちんと明示されていることは評価できます。障がいのある学生の受け入れ方針は、まだ明示はされていませんが、明示に向けた方針は決まっており、間もなく具体化されることが期待できます。学生募集、入学者選抜は適切に行われており評価できます。収容定員に関しては、過去2年間で適正な水準へ戻ってきていますが、次年度も同様の努力が必要と思われます。一般入学者比率が50%を下回っていることは少々問題なので、今後、より一層の改善が望まれます。
- 受け入れ方針で教育目標を掲げていますが、ここでの方針とは、理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像を明示した上で、修得しておくべき知識等の内容・水準を示すことです。確かに入試ガイドでは出題範囲が示されていますが、知識内容だけという偏りがあるかと思えます。どのような技能、能力、態度が必要か記す必要はないのでしょうか。なお、記されている教育目標はHPに掲載されている教育目標と異なっていますが、それは何故でしょうか (<http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/about/index.php?id=22>)。
- 定員管理は厳密になされていると評価します。
- 入学定員に占める一般入学者の比率が50%を下回っていることを課題として捉まえていますが、改善を期待します。
- 小項目5.0.2については、大学基準協会は基盤評価を「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」としています。この視点から簡単な説明が望まれます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・「求める学生像」は、「『理工学部のアドミッションポリシー』に掲載されているとのことですが、その内容は「人材育成の目標」ではないでしょうか。受験生の目線に立ったアドミッションポリシーの策定が望まれます。
- ・学生の受け入れ方針については、アドミッションポリシーなどを利用して適切に公表されており、この点は評価できます。ただ、障がいのある学生の受け入れ方針についての公表は遅れており、改善することが望まれます。ただし障がいのある学生に関しては、受け入れに対する具体的な動きもあり評価できます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

《医学・歯学》

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

《上記以外の分野》

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

《未完成学部》

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《全て》

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

《未完成学部》

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる

（なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）

※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

5.0.1(現状説明)

理工学部で行われる実験には危険が伴うものもあり、障がいがある学生への対応は以下の通りである。(1)入試前には、入試部を通しての個別問い合わせに対して受け入れが可能かどうかを検討する。(2)合格後入学前には、理工学部学生主任と担当事務、総合支援センター担当者が、該当学科と連携しながら学生からのヒアリングを行う。(3)さらに履修登録前にも再度ヒアリングを行い、適切な履修指導を行う。(4)履修登録後には必要な配慮を担当教員に周知させる。現状では一人一人の学生に個別に対応しているが、今後は「障がい学生の受け入れ方針」として体系化、文書化していく予定である。

★5.0.1(現状説明)

現在、理工学部のアドミッションポリシーは、全学ホームページ上 (http://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html) に掲げられており、入学者に要求される技能、能力、態度が明示されている。理工学部ホームページ上 (<http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/ug-admissions2/index.php?id=12>) にアドミッションポリシーとして掲げられているものは教育目標の内容となっているため上記のものに差し替える。教育目標に関して現在、主旨は同じであるが文言の異なる版があるため精査統一していく予定である。